

(2022年度) グリーンファイナンスモデル事例創出事業

モデル事例概要

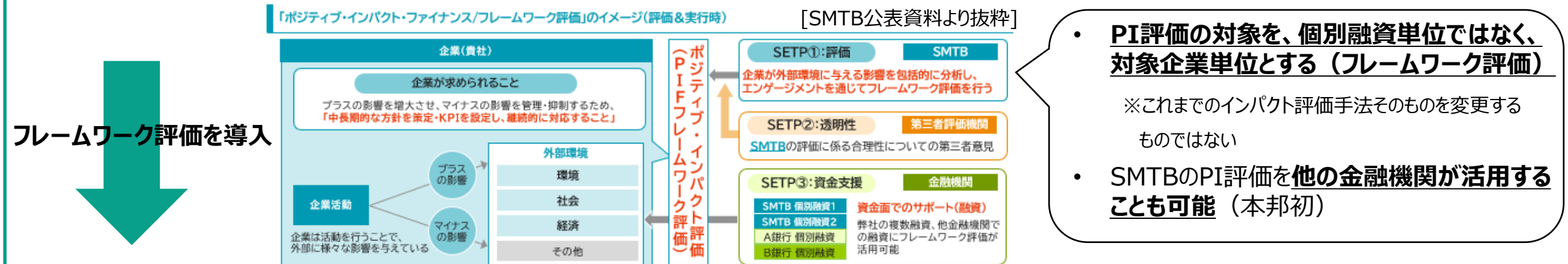
- ・ 応募者：三井住友信託銀行株式会社（以下、SMTB）
- ・ 名称：複数のファイナンスで参照可能なポジティブ・インパクト評価フレームワーク
- ・ 準拠する原則：国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が定める「ポジティブ・インパクト金融原則」

応募者の取組経緯

SMTBは、責任銀行原則に則り、「投融资先が環境・社会・経済に及ぼすインパクト」を測定・管理し、適切なマネジメント（ネガティブ・インパクトの最小化及びポジティブ・インパクトの最大化を促すエンゲージメント）を行い、目標設定の上、その達成状況について開示していくこととしている。その一環として、同社はポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、PIF）を導入し、より多くのインパクト創出を目指してきた。

これまでのPIFの課題

- ・ インパクト目標の設定・測定・管理が、個別融資の契約期間に捉われる。
- ・ 個別融資単位で都度ポジティブ・インパクト評価（以下、PI評価）を行うため、対象企業・PI評価者双方に実務的な負担が発生する。



フレームワーク評価の導入によるメリット

- ・ 個別融資の契約期間に捉われない**長期的なインパクト目標の設定・測定・管理が可能**となる。
- ・ PI評価に複数の個別融資（PIF）の紐付けが可能となり、対象企業がPIFを継続的に取り組む際にPI評価を再取得することに伴う、**対象企業・PI評価者双方の実務的な負担を軽減することが可能**となる。
→機動的なPIF取組が可能となることで、当該企業における**PIF実行額の飛躍的な伸長が期待**される。
- ・ 多くの企業がPI評価を活用しPIFとして資金調達を行うことで、SMTBは個社に留まらず**業種毎のインパクトの特性を把握・分析することが可能**となる。
→業種間のインパクト発現状況の差異を踏まえた**融資ポートフォリオ全体での適切なインパクト管理（ポートフォリオベースでのIMM）の実現が期待**される。

ポートフォリオベースでのIMM（Impact Measurement and Management）

金融機関が、自社の融資ポートフォリオ全体について、環境・社会・経済に対するインパクトを紐付け、それらのインパクトが融資を通じて「どの程度創出されたか」を定量的に測定し、管理する手法を指す。

モデル性評価のポイント

- 三井住友信託銀行株式会社が定めるポジティブ・インパクト評価フレームワークをモデル事例として選定するにあたり、①実施体制の先進性、②市場に対する波及効果、③効率性、④インパクト評価方法の先進性について評価。

1. 実施体制の先進性

- インパクトファイナンスの評価体制を内部で構築しているほか、当該評価を支えるための技術専門チームを擁している。
- 従来の個別PIF評価と異なり、中長期的な評価とモニタリングを可能としている。
- SMTBが個社に対して実行する複数の融資を一つのPI評価に紐付けることに加え、他金融機関も当該PI評価を活用し融資実行できるため、対象企業への融資ポートフォリオ全体を一つのPI評価に紐付けることができ、ポートフォリオベースでのIMMの実現が期待できる。

3. 効率性

- フレームワーク設定時に第三者評価を取得するため、個別案件組成時の第三者評価取得が不要であることから、企業のコスト負担が軽減され、金融機関の事務負担も軽減される。
- 個別融資の都度インパクト評価が不要なことから、機動的なインパクトファイナンスの実行が可能となる。
- 複数の金融機関が共通して参照できることから、企業のインパクト管理の一元化が一定程度図られる。

2. 市場に対する波及効果

- 個別PIFを軸にポートフォリオベースのインパクト管理を精緻化する試みであり、ポートフォリオベースでのIMMを実践するフレームワークとして、他の金融機関も参照しやすい。
- 独力でのPIF実行が困難な地域金融機関がSMTBのPI評価を参照し、自らエンゲージメントを実践することで、地域金融機関のインパクト管理・評価に関する体制整備・知見向上への貢献が期待される。
- 評価を受ける企業は、複数の金融機関が同一のPI評価を参照することで融資毎のインパクト管理・提出が一元化されるケースが増えることから、企業からのニーズも高い。

4. インパクト評価方法の先進性

- SMTBは2019年よりUNEP FIのポジティブ・インパクト金融原則、モデルフレームワーク及びインパクトレーダーを参照し、グローバルに認知されたインパクトの包括分析・特定・評価・モニタリング体制を内製化しており、当該体制は国内外の金融機関の先行事例である。
- インパクトの管理においては、個別融資からポートフォリオベースに移行することで、より高度な管理手法を試みており、SMTBが参画する責任銀行原則等で要求されるポートフォリオベースでのインパクト管理の高度化を図っている。